

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 3月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2873500165		
法人名	社会福祉法人 光寿福祉会		
事業所名	グループホーム 千手荘		
所在地	姫路市夢前町宮置819番地 (電話) 079 - 335 - 2466		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年3月13日

## 【情報提供票より】(平成21年 1月20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.8人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	160 円	昼食 310 円
	夕食	310 円	おやつ (3食に加算) 円
	または1日当たり		780 円

## (4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	15 名	男性 1 名	女性 14 名
要介護 1	3	要介護 2	4
要介護 3	5	要介護 4	3
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 85.4 歳	最低 76.5 歳	最高 97.5 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ツカザキ記念病院、井口皮膚科、澤田整形外科
---------	-----------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>姫路市の北部に位置し、周りを緑深い山に囲まれた静かな大自然が味わえる山腹に建てられている。歴史ある法人の一角に開設された明るくゆったりとしたグループホームであり、ノーマライゼーションをケアに取り入れ、地域密着型サービスが展開されている。地域の行事に多く参加し、ボランティアや他施設の利用者・地域の人など、他者との交流に力を注ぎ、桜・梅・菊などの花を通じて季節を味わう機会として外出する取り組みを実施されている。一人ひとりのペースを尊重し、出来ることを職員と一緒にいながら、利用者の力を発揮してもらう場面作りに取り組んでいる。</p>
---

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)</p> <p>前回評価で改善課題となった点は、職員全員で話し合い、改善出来る所から取り組まれている。これからも継続して改善に向けて努力しようとする前向きな姿勢で対応されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)</p> <p>職員・管理者が評価の意義や目的を再確認され、自己評価の項目毎に一人ひとりが振り返り、それをまとめられ全員で取り組まれている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)</p> <p>今年度の運営推進会議は2回開催されており、サービス状況の説明や行事報告が行われている。日々のサービスの質の向上や運営について、いろいろな立場の人からの活発な意見交換の場とする為に、会議内容の工夫や定期的な開催等の取り組みに期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)</p> <p>日頃からの付き合いの中で、家族からの要望や意見が言いやすい雰囲気を整えられている。苦情や不満を受けた時は真摯に向き合い、反省に止めず、運営やケアに反映させるように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)</p> <p>地域の祭りや学校の行事に参加したり交流はあるが、自治会の加入や、地域活動は立地環境の配慮等で今後の課題である。グループホーム単体としての取り組みとして、積極的な地域の人との関係作りが望まれる。</p>

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	和顔愛護・一期一会・安心安全快適な日々が理念であり、皆と楽しく元気で出来ることを持ち続けられるようなサービスを目指して支援している。		地域密着型サービスとしての、貴事業所の特徴を加えた理念の作成に取り組んで欲しい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や日々のケアの中の掃除や洗濯・シーツ交換などの支援の場面で、入居者自身のできる力を大切に活かす支援を行うようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の秋祭りや学校での運動会や生活発表会の招待に参加したり、地域の小学生の訪問を受けたり、併設施設でのボランティアと一緒に受け入れたりもしている。ホームとしては自治会には加入しておらず、地域への働きかけは現在行われていない。		ホームから地域の人々との関係作りに向けて、入居者が地域の一員として交流が少しでも図れ、生活が潤うような支援の取り組みに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、スタッフ全員がそれぞれで取り組み、それを基にリーダーがまとめて作成された。前回の評価からの取り組みについては、全員で話し合い改善出来る事から取り組まれている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	平成21年には6月に1回開催され、この評価をきっかけに平成21年2月に開催されている。市議員・自治会長・地域包括支援センター・家族会・理事長などを参加者とし、ホームでの状況や地域からの交流の希望などの意見交換が出来ている。		日々のサービスの質の向上や運営について、いろいろな立場の人からの活発な意見交換の場とする為に、会議内容の工夫や定期的な開催等の取り組みに期待したい。
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者とは、事故報告や感染症発生における報告時などに連絡をとり、意見を頂いている。		今後は市の担当者等と日常の運営や利用者のケアについて相談する機会を多く持ち、サービスの質の向上に向けた連携に期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	殆どの家族が支払いや受診時などに面会に来所されるため、口頭で近況報告を行ったり、金銭出納帳を直接確認してもらい、サインを貰っている。また、入居時からの日々の写真を壁に貼ったりアルバムにし、退所時に渡すようにしている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時等の機会に、家族の希望や意見を前向きに真摯に受け止める体制にあることを伝えている。意見箱の設置もあるが、意見を頂いた例はない。		家族会などでも意見を伺ったり、アンケートや要望書などの配布等具体的な取り組みを検討してみられてはいかがでしょうか？
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	今年度は4月に2人の異動があったが、入居者への影響を考慮し、介護スタッフとして併設特養で経験を積んだ職員や希望した職員の異動を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修には参加できているが、法人内外の他の研修については、予定を把握した時点で参加の希望を聞き参加を勧めている。		職員の段階に応じた研修計画を立て、外部研修や内部研修の機会を確保し、職員を育てる計画的な取り組みをして欲しい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの連絡会へは参加しているが、まだ交流が図れるほどではない。		さらに連絡会の活動が活発になり、ネットワーク作りや相互訪問や相談が出来るような交流に発展することを期待する。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には家族及び入居者自身に複数回来所頂き、直接話したり雰囲気味わったりと馴染めるよう支援している。また、体験入所を行ったまま、実際の入所になる場合もある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に行うケアの中で、昔からのしきたりや方法を教えて頂いたり、味付けを助けて貰ったりしながら、支え合う関係作りを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の支援の多くの場面で、入居者自身の希望や意見を聞きながら、支援をするように心掛けている。また、今までの生活を知る事によって入居者の好みや思いに少しでも近づけるようにし、職員間では連絡帳を活用して、気付きの共有を図っている。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族の意向を聞きながら、担当者会議を行い、入居者本位のケアプランの作成に取り組み、家族に報告も行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランの見直し期間は6ヶ月とし、途中で変化があったり、必要性がある時は、新たにその現状に即したプランを作成し直している</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地域の人にも要望があれば、一緒に過ごしたり、交流を図る用意がある。また、家族の生活の状況に配慮して必要時は通院の介助を行ったりもしている。</p>		<p>ホームの用意できる柔軟な支援については、ホーム外の人に周知して貰える働きかけをして欲しい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の入居者が多いため、以前からのかかりつけ医を殆どの方が継続して主治医としている。受診については、基本的に家族が行っているが、緊急時や家族の状況によっては受診の支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前に強い希望があり、終末期の在り方を家族やかかりつけ医とも相談しながら、ケア出来た経験がある。ホームの方針としては、看取りまでの体制がまだ整っていない。		ホームの方針として、重度化した場合や終末期の対応についての方針を早い段階から検討され、共有されることを期待する。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りや尊厳を大切に言葉掛けや対応を心掛けており、家族も含めてプライバシーを守れるよう支援をしている。また、書類などは扉付きの棚に保管するように注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が希望する時は、行事への参加を見合わせたり、食事を遅らせて摂取したり、入居者のペースに合わせて見守ったり、援助したりしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼・夕の3食の食事作りについては、併設施設で一括して作られ、配膳したものを入居者と一緒に準備した食器に盛り付けたり、後片付けをしたりしている。入居者とは一緒に漬物を漬けたり、お菓子を作ったり、誕生日や正月には外出したり鍋パーティをしたりしている。		入居者の嗜好を聞いたり、一緒にメニューを考え、買い物や料理をする事の一連の作業が認知症ケアに重要であるという原点に立ち返り、食事作りをまず月や週に一度から取り組まれることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を聞きながら、タイミングを合わせて入浴介助を行っており、個浴での入浴を実施している。希望があれば、毎日でも入浴可能であるが、週に2～3回の入浴を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの生活歴や得意な事を把握しながら、一人ひとりの力を活かして、草引きや洗い物・テーブル拭きの役割が活躍の場ともなり、職員は安全に行えるよう声を掛け見守っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1～2度買い物やドライブに出掛けており、喫茶店に寄ったりして楽しんだりしている。特に桜・菊・梅の季節に花見は定例になっており、日々の散歩は気候が良い時には行っているが、寒い時期は実施できていない。		常時行う散歩や買い物外出と、年間や月間で行う外出について、安全や人員の配置などを考え、個別の対応が出来るよう外出支援に期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの外からの入り口は常時施錠されており、インターホンも設置されていない。しかし、ホームから併設施設への経路の入り口は開錠されており、チャイムが設置されている。		常時外部との出入り口を施錠することの弊害について、運営者・職員間で話し合い、共通の意識を持ち、玄関外にフェンスを設置したり、玄関を短時間から開錠していく工夫など、入居者の自由と安全性の取り組みに期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に1回消防訓練と避難訓練は行っている。また、緊急時の連絡網はあり、法人内の協力体制も確保されているが、マニュアルや夜間帯を想定した訓練などは行っていない。</p>		<p>日頃より地域の人々の協力が得られるような働きかけを行うとともに、夜間帯を想定した避難訓練やマニュアル作りに取り組んで欲しい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取量はチェックし、日々の記録に記録している。また、水分摂取を促すように声を掛け、介助している。特に摂取が必要な時は体内吸収が良いポカリスエットなどを促すようにしている。しかし、実際の摂取水分量の把握には至っていない。</p>		<p>入居者それぞれの個別の1日の水分必要量や食事摂取量を把握した上で、実際の状況と支援の必要性を検討して欲しい。</p>
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは広くゆったりしており、十分な採光と換気ができている。広い廊下には入居者の作品や雛人形が飾られている。A棟、B棟と2ユニットあるが、日中はA棟のリビングで15人が一緒に過ごしたり、食事をしたりしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者自身の作品や家族の写真・思い出の品物が置かれ、安心できる居室づくりが出来ている。また、居室は清潔に保たれ、換気もできている。</p>		

 は、重点項目。